

令和6年度【総合学力調査の分析】

概要

国語、数学、英語、理科の4教科で実施した総合学力調査の結果は、国語・数学・英語の3教科は、全国の平均正答率では大きな差はありませんでしたが、理科が-2.6ポイントでした。さらに達成率においては、理科が-9.5ポイントでした。理科を苦手とする生徒が多くいることが分かります。しかし、中央値と比較すると、英語の中央値が最も差があり、-4.7ポイントでした。塾での取り組みや小学校での学習内容の差が結果として二分化傾向を強めている可能性があります。中学校においては習熟の程度を埋める指導の工夫を授業改善の視点として取り入れていく必要があると考えています。

数学は、平均正答率および達成率で、全国および日野市を上回りましたが、全教科において平均到達スコアは下回りました。引き続き生徒一人一人の「つまずき」や「苦手分野」などの把握とともに、より良い授業の実現を目指し指導方法の工夫に努めていきます。

全体概要 中学1年

大坂上中

■結果概要

※差の振替表示について
・教科に関する調査結果：貴校の値が他の母集団より5%以上の場合は水色の網掛けで表示し、-5%以下の場合は濃い網掛けと白文字で表示しています。
・意識に関する調査結果：貴校の値が他の母集団より5ポイント以上の差がある場合に、水色の網掛けで表示しています。

●平均正答率(%)

母集団	国語	数学	英語	社会	理科
貴校	62.0	65.8	89.0		57.0
全国	62.0	65.3	89.1		59.6
日野市	63.4	65.6	90.9		60.0
全国との差	0.0	0.5	-0.1		-2.6
市区町村との差	-1.4	0.2	-1.9		-3.0
目標値	53.1	55.6	80.8		60.0

●達成率(%)

国語	数学	英語	社会	理科
73.0	71.5	87.5		45.5
71.9	68.3	83.6		55.0
76.0	69.7	88.1		53.5
1.1	3.2	3.9		-9.5
-3.0	1.8	-1.6		-8.0

●中央値(%)

国語	数学	英語	社会	理科
64.3	69.0	90.5		56.7
64.3	69.0	95.2		60.0
64.3	69.0	95.2		60.0
0.0	0.0	-4.7		-3.3
0.0	0.0	-4.7		-3.3

●平均到達スコア

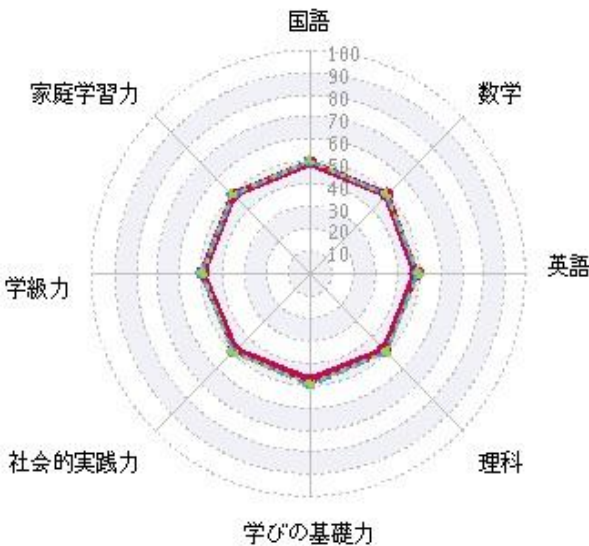
国語	数学	英語	社会	理科
51.6	49.3	69.3		47.2
51.7	49.5	71.1		50.0
52.9	49.5	72.9		50.1
-0.1	-0.2	-1.8		-2.8
-1.3	-0.2	-3.6		-2.9

●意識調査平均スコア

学びの基礎力	社会的実践力	学級力	家庭学習力
64.7	65.8	68.8	69.0
67.2	67.8	70.2	70.1
66.9	68.4	69.3	70.8
-2.5	-2.0	-1.4	-1.1
-2.2	-2.6	-0.5	-1.8

■バランスグラフ

●貴校 ●全国 ●日野市

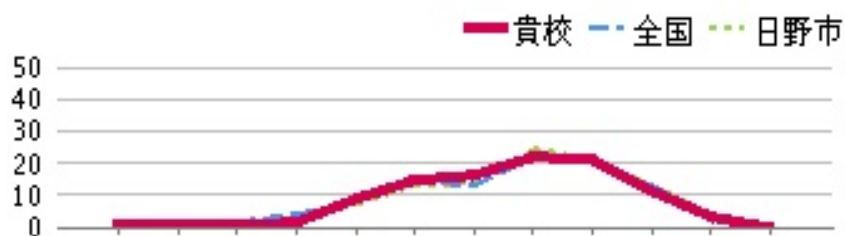


国語

基礎的な問題において、漢字の書きや文章の描写に合う説明を選ぶ問題の正答が低く、特に漢字の問題においては、全体的に苦手傾向であり、二極化していくことが懸念されます。毎時間の小テストなどの地道な取り組みを習慣にしていくことで、基礎力の育成を図っていく必要があります。また、応用問題において、全国・日野市とともに本校も記述式の出題形式問題の正答率が低い傾向にあります。本校においては無回答率も高く、記述式の問題を投げ出してしまう生徒が多い状況です。文章理解の基礎力を高めるとともに、文章を条件に沿ってまとめたり、条件に従って文章を書き直したりする学習をグループ学習として行うことで、記述式問題の克服に努めていきます。

主体的に学習に取り組む態度の質問では、「自分が書いた文章や話すときの原稿を見直して、理由が書けているか、もとの文章を踏まえているか、構成がしっかりしているかなどを振り返っている。」という質問には肯定的な回答が多かったが、「本で読んだことを参考にして、学校や家庭の学習や生活の場面で、より良くなるよう工夫している。」「敬語や丁寧語に、どのような心が込められているかを考えている。」という質問項目は、全国および日野市と比べ大きく下回っていました。学習に対しては真面目に取り組もうとする態度が見られますが、普段の生活を学習に結び付けて考えたり学んだりする意識が低いようです。普段の何気ない出来事を授業と結び付けたり、授業内容を生活に結び付けたりすることなどに意識が向くよう、学校・家庭での働きかけが重要だと考えています。

●正答率(%) 教科総合



	0	~10	~20	~30	~40	~50	~60	~70	~80	~90	90~	100
全国	0.2	0.2	1.2	3.8	8.4	14.3	12.6	22.2	20.6	12.7	3.4	0.3
日野市	0.1	0.3	0.7	2.9	7.1	12.8	13.5	24.4	20.9	12.6	3.9	0.7
貴校	0.5	0.5	1.0	1.5	9.0	14.5	16.0	22.0	21.0	11.0	3.0	0.0

数学

実施教科の中で唯一、教科の平均正答率、達成率ともに若干ではありますが全国および日野市を上回りました。しかし、応用問題や記述式の問題において正答率が全国・日野市を下回るとともに、一部の生徒に学習内容の未定着である傾向がみられます。また、基礎的な問題においても、「分数と小数が混ざった計算」や「計算の見積もり」について答える問題など、計算力に課題がみられます。生徒の習熟度に合わせた指導方法を工夫しながら、生徒一人一人の苦手分野の克服に向けて、個別の指導にも力を入れていきます。

主体的に学習に取り組む態度の質問では、「新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。」という質問項目では、全国および日野市を若干上回り、今までの学習内容を使って問題に向き合おうとする姿勢をいえることができます。しかし、「アンケート結果をもとに自分たちで結果をまとめたり考察したりするときには、統計の考え方を生かしている。」「1つの問題について、これまで習ったことを工夫して使えば、いろいろな解き方があると気づくことがある。」「問題を解いた後で、もう一度解き方を振り返って、良いところと間違っているところやもっと工夫ができることを見つけ出して、より良い解き方を考えるようにしている。」という質問項目では、全国から9~11ポイント下回る結果となっています。答え合わせで終わらずに、どのような考え方や解き方があるのか。アンケート結果が何を意味しているのかを様々な視点で考察するなど、多角的な視点の育成が必要と考えます。様々な問題やグループでの取り組みを通して、多くの考えや意見に触れることを通して、より深く考えることができる授業の工夫を重ねていきます。

●正答率(%) 教科総合

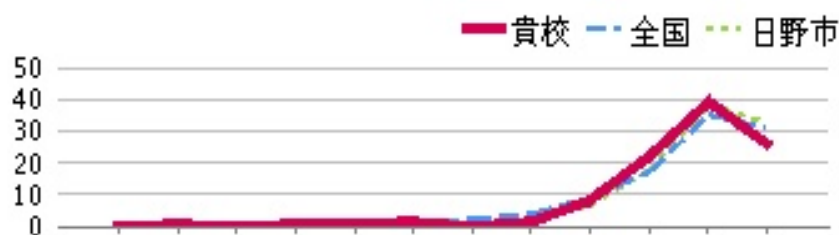


英語

概要でも触れましたが、全国および日野市と比べ、正答率では大きな差はありませんでしたが、基礎的な問題において、中央値が-4.7 ポイントも下回っていました。塾での取り組みや小学校での学習内容の差が結果として二分化傾向を強めている可能性があります。少人数によるグループワークを通して互いに学び合える学習の充実や ALT を活用した実践的な授業、ICT 機器の使用や教材・教具を工夫し、苦手意識やつまづきに対応した授業を展開していきます。

主体的に学習に取り組む態度の質問では、「日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、外国の文化に対する理解を深めようとしている。」「趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を相手が読んでわかりやすいよう英語の文で書くようにしている。」という質問項目では、全国および日野市と比べ大きな差は無く、英語圏の文化を学び、自分に関することを英語で表現しようとする意欲はあるものの、「関心のある事柄について、相手からの質問に対し、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。」「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。」「書き手の立場に立って、読んだことについて英語で質問や意見を言ったり、書き手が望む情報を提供するために交流したりしている。」という質問項目では、全国および日野市と比べ 9.2～14 ポイント下回る結果となり、コミュニケーションツールとしての英語の定着に課題があると考えます。英語で表現したり、相手の質問に答えたり、会話を楽しめるよう ALT との会話の機会を増やしたり、放課後の英会話教室を実施するなどして、コミュニケーションツールとしての英語力の伸長を図っていきます。

●正答率(%) 教科総合



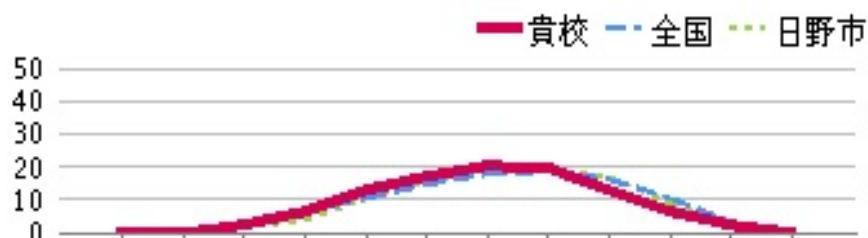
	0	~10	~20	~30	~40	~50	~60	~70	~80	~90	90~	100
全国	0.1	0.0	0.1	0.2	0.5	1.0	1.9	4.1	8.5	17.4	35.0	31.1
日野市	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.6	0.8	2.5	6.4	18.0	38.5	32.5
貴校	0.0	0.5	0.0	0.5	0.5	1.5	0.0	1.5	8.0	22.0	39.5	26.0

理科

概要でも触れましたが、全国と比べて平均正答率で-2.6 ポイント、達成率においては、理科が-9.5 ポイント下回りました。また、記述式の問題において全体的に苦手な傾向がみられます。「実験結果について適切なものを選ぶ」問題や「LED の信号機が雪で見えづらくなる理由を答える」問題など、学習内容から実験結果について考察したり自身の考えをまとめたりすることに課題があります。実験を行う際、グループや個人で仮説を立てた上で実験を行い、実験の結果をじっくりと考察することを繰り返すことで、思考を文章でまとめ表現する力を育成していこうと考えています。

理科は化学や生物、物理など学習分野が多岐にわたるため、苦手と感じる生徒が多くいるようです。主体的に学習に取り組む態度の質問では、すべての項目で全国および日野市を下回り、特に「自ら進んで、自然の様子を観察したり実験したりしようとしている。」「今日の学習課題を、できる限り自分で考えて設定しようとしている。」「実験や観察、調査の結果をまとめてレポートに書いている。」「実験や観察の結果を踏まえて、主体的に仮説の検証をしている。」という質問項目では、11～15 ポイント下回っています。自らの生活と学習内容を結び付けて捉えることや、学習課題に対して正答のみに意識が向き、結果の因果関係や失敗の原因、観察や実験結果についてじっくりと考えることができていないことが原因だと考えています。授業の時数や時間に制約がある中ではあるが、生徒自身が課題に対して仮説や疑問をもち、自ら調べたり実験したりすることで課題を解決していけるよう授業内容を工夫し、理科を楽しみながらより深く学べる授業づくりに努力していきます。

●正答率(%) 教科総合



	0	～10	～20	～30	～40	～50	～60	～70	～80	～90	90～	100
全国	0.1	0.4	2.6	6.0	10.1	14.2	17.8	19.0	16.5	10.3	2.8	0.2
日野市	0.2	0.4	1.8	3.9	10.7	15.2	19.4	18.9	17.4	9.1	2.8	0.1
貴校	0.0	0.0	2.5	6.0	13.0	17.0	20.0	19.5	13.0	6.5	2.5	0.0

【意識に関する調査の分析】

意識調査

意識調査は、「学びの基礎力」「社会的実践力」「学級力」「家庭学習力」の4つの分野で調査が行われました。大きな差はありませんでしたが、全国および日野市と比べ、すべての項目で下回る結果となりました。特に「学びの基礎力」「社会的実践力」が低い結果となっています。

●意識調査平均スコア

母集団	学びの基礎力	社会的実践力	学級力	家庭学習力
貴校	64.7	65.8	68.8	69.0
全国	67.2	67.8	70.2	70.1
日野市	66.9	68.4	69.3	70.8
全国との差	-2.5	-2.0	-1.4	-1.1
市区町村との差	-2.2	-2.6	-0.5	-1.8
目標値				

・学びの基礎力では、「自ら学ぶ力」に課題があるようです。「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している。」「習った内容の中で、何がまだ理解できていないか、わかっている。」「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。」の質問項目において大きく下回るとともに、テストの振り返りができていないようです。テストの振り返りを課題として行っている教科もありますが、自らテストの振り返りに取り組む生徒が少ないです。また、自身の学習状況を把握し、学習を調整することができていません。なんとなく授業を受けるのではなく、自身の理解度を意識しながら授業に臨むことが大切になります。

・社会的実践力では、「問題解決力」「自己成長力」に課題があるようです。「調べたことを、パソコンを使ってまとめたり、発表したりすることができる。」という質問項目では、肯定的な回答と否定的な回答との差が大きく、一部の生徒にとって情報をまとめたり発表することへの苦手意識が強いようです。グループでの学習や発表などを通して、苦手意識の克服を促していこうと思います。また、「自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある。」「自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う。」という質問項目では否定的な回答が多い傾向にあり、自己肯定感の低さを感じます。学習だけでなく学校行事や部活動、学級での活動の中から、生徒一人一人が自身の得意分野や良さに気付けるよう声掛けや価値づけをしながら、生徒自身が自らの力を伸ばそうと思えるよう働きかけていきます。

・学級力では、「やりとげる力」が低いようです。「私は、みんなで決めた学級目標に力を合わせて取り組んでいる。」「私は、自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動に、進んで取り組んでいる。」という質問項目が低いです。しかし、「私は、係や当番の活動に責任を持って取り組んでいる。」は否定的な回答は少なく、自分自身が進んで取り組んだことに対しては努力することができているようです。また、「私は、学級会で、司会や記録を担当して話し合いを進めたことがある。(自律力)」という質問項目では、15ポイントも高く、積極的に話し合いを進行することができるようです。ただ、学級や班などでの話し合いで決まったことや学級目標に対して意欲的に取り組むことができていないようです。目標の掲示や取り組みについてこまめに確認するなど、目標や取り組み内容を共有し、意識付けすることが重要と考えています。

・家庭学習力では、一部の生徒で「家で学習するときは、苦手な教科もしっかりと学習している。」という質問項目で肯定的な回答が少なく、「学校の先生が出した宿題をきちんとやりとげている。」という質問項目も全体的に肯定的な回答が低いです。苦手なことや面倒なことに対しても忍耐強く取り組めるよう働きかけていく必要があります。

【大坂上中学校】アクションメッセージ

今この瞬間を大切に、未来を逞しく生きる生徒の育成

「明日も楽しみ」と
思える授業

「明日も会いたい」と
思える教師・友達

「明日はもっと!」と
思える取組

明日という小さな未来に思いを馳せることができる学校

【坂中宣言】

尊 伝 進 自
重 統 化 律